

令和 6 年 6 月 8 日現在

機関番号：34310

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2020～2023

課題番号：20K10673

研究課題名（和文）看護学における漢方医学教育の基盤構築

研究課題名（英文）Establishment of a Foundation for Kampo Medical Education in Nursing Science

研究代表者

小池 潤 (Koike, Jun)

同志社大学・研究開発推進機構・嘱託研究員

研究者番号：00323345

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 3,300,000円

研究成果の概要（和文）：看護学における漢方医学教育方法を明確にする目的で、医学教材を参考に教育内容を検討した結果、「漢方医学の視点で観察する」ことを学習できる講義資料を作成した。さらに、漢方診察技術を理解するための演習課題を作成した。

作成した教材は、2020年～2023年にかけて計320名の看護大学生の授業と、96名の看護師の授業で活用した。授業後の調査を行い、講義の理解を分析し、教材の有用性を評価した。漢方薬に関心を持つ学生と難しいと回答する学生と双方の意見があり、評価は多様であった。看護師にとって必要な漢方の知識を誰でも繰り返し学習できるオンライン教材を作成し、看護学における漢方医学教育の基礎を構築できた。

研究成果の学術的意義や社会的意義

病院で漢方薬を処方することは増えているが、看護学教育では漢方医学教育が普及していないため、看護師は自己学習や経験知で対応している現状がある。看護師が漢方医学を学習しやすくなると、漢方薬の服薬支援が詳しくできるようになる。患者が漢方薬や体調について看護師に相談しやすくなるなど、医療サービスの充実が期待できる。

研究成果の概要（英文）：In order to clarify the teaching method of Kampo medicine in nursing, we examined the educational content with reference to medical teaching materials, and as a result, we created lecture materials that allow students to learn to "observe from the perspective of Kampo medicine". In addition, we created an exercise task to understand Kampo examination techniques.

The materials created were used in classes for a total of 320 nursing university students and 96 nurses from 2020-2023. Post-class surveys were conducted, comprehension of lectures was analyzed, and the usefulness of the materials was evaluated. There were opinions on both sides, with students who were interested in Kampo medicine and students who answered that it was difficult, and the evaluations were diverse. We were able to create online teaching materials that anyone can repeatedly learn the knowledge of Kampo necessary for nurses, and we were able to build a foundation for Kampo medical education in nursing.

研究分野：看護学

キーワード：漢方医学 看護教育 フィジカルアセスメント

## 様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19 (共通)

### 1. 研究開始当初の背景

2017年に看護学教育における漢方医学教育の学修目標が明記された。他の分野と違い、看護学分野では知識の習得のみならず援助の説明が目標である。しかし、実際に漢方医学に関する教育を導入している教育機関は学士課程では3.6%にとどまり、看護学において漢方医学に関する教育は進んでいない現状がある(中野,2013:基礎看護教育における漢方医学教育の実態)。

漢方処方実態調査(2011)によると89%の臨床医が漢方薬を処方しており、看護師が漢方治療している患者にかかわる機会は確実に増えている。漢方に関する知識不足や誤った認識による効果の減弱など、服薬に関する事故を防ぐために看護師は漢方薬の正しい知識を持つ必要がある。しかし、実際に看護師が漢方治療する患者に適切に看護援助するための知識や技術、およびその学習方法は、看護学分野では明らかにされていない。

臨床看護師にとって重要課題である「漢方薬の服薬支援」と「漢方治療する患者の病態把握」を可能にする教育を目指して、実践的知見を明らかにする必要がある。

### 2. 研究の目的

漢方治療において看護援助するために必要な漢方医学の知識・技術を明らかにし、教育方法を導き出し、看護学における漢方医学の教育基盤を構築することを目的とする。

漢方治療する患者の多くは難治性の症候と複雑な背景をかかえ、原因疾患に対する西洋学的治療を並行して受けており、総合的な観点で看護援助する必要がある。しかし看護学では漢方医学研究の蓄積がないため、臨床看護師は手探りで自己学習し、経験知で対応している。目的に向けて、以下の2点を明らかにする。

- (1) 漢方医学特有の看護援助に必要な知識・技術の明確化
- (2) 看護師の発達段階に対応した漢方医学教育内容・方法の特定

### 3. 研究の方法

#### (1) 看護学における漢方医学教育内容の検討

<1次調査>:研究者が漢方の基礎知識を講義した看護師への授業評価を分析

病院や訪問看護施設で働く看護師の多くは漢方薬の特徴を理解していなかった。正しい服用方法に関する知識が無く、漢方薬に疑問や不信感を抱いたまま服薬管理している状況が明らかになった。

看護学生は漢方薬に関する不信感の回答が無く、看護師よりも関心が高かった。看護師と看護学生ともに漢方医学の脈診と舌診への関心は高かった。

<2次調査>:文献および医学教育資料の検討

漢方医学に関する学会誌・書籍・医学雑誌・医療スタッフ向けのセミナー資料を収集して教育内容を検討した。書籍や医療系雑誌の教授方法を参考に、看護学生が関心を持ち臨床実習でも活用できる知識と技術の教育方法を検討した。

#### (2) 1次・2次調査の成果から授業内容を検討し教材を作成

看護学における漢方医学教育として、看護学生が「漢方医学の基本を理解する」「漢方医学の視点で看護の対象者を観察する」「漢方医学の視点で対象者の身体情報をアセスメントする」ことを目的とした講義資料を作成した。

#### <講義内容>

漢方薬の概要:生薬、エキス顆粒、漢方薬の剤形

日本の漢方医学:日本での始まりと変遷、近年の漢方薬、漢方教育

漢方薬の服用方法

漢方医学の診断と診察方法:脈診・舌診(演習を実施)

#### <演習課題>

- ・診察技術を『オンデマンド教材』または『Web授業中の実演』により説明
- ・個別の実践を記録する演習課題を作成

#### (3) 作成した教材による教育の実施および受講者対象の調査

作成した教材は、2020年~2023年にかけて、計320名の看護学生の大学授業と、96名の臨床看護師対象の講義で使用した。知識習得、演習の実施状況についてアンケート調査を行い、講義の理解と看護実践への活用意義を分析し、教材の有用性を評価した。

#### <対象者>

- ・A大学の看護学生320名対象:オンデマンド授業
- ・B大学の看護師96名対象:同時配信によるオンライン授業

<調査内容> 多肢選択の回答、理由は自由記載

- ・ 講義内容の理解
- ・ 脈診・舌診の実施
- ・ 看護で役立つ事の有無
- ・ 漢方医学を学ぶ必要性について

#### (4) 倫理的配慮

対象者には文書で研究協力を依頼し、自由意思に基づく任意性を保証して同意の得られた者を対象とした。

学生の調査については、課題ノートは授業構築のための教育資料としての活用に加え、研究資料とすることを十分対象者に説明し、回答内容は成績に反映しないことを保証した。調査用紙は無記名とし、提出はオンライン授業のアンケート提出機能を使用し、ダウンロードしたデータを使用した。

#### 4. 研究成果

授業後の調査に回答した看護学生(A大学)は161名であり、看護師(B大学)は93名であった。

##### (1) 看護学生320名の講義ノートの特徴

自分自身の脈拍を触知する課題に対し、脈診の5段階評価は全員が実施して記載できていた。脈診によって気づいたことも全員記載があり、アセスメント結果を詳細に記述する学生もいた。舌診として、色、潤い、厚み、形、舌苔、静脈についての評価も全員が実施して記載できていた。舌診によって気づいたことも全員記載があり、脈よりも詳細にアセスメントしていた。

##### (2) 看護師96名の講義ノートの特徴

自分自身の脈拍を触知する課題に対し、脈診の5段階評価は全員が実施して記載できていた。脈診によって気づいたことも全員記載があり、アセスメント結果を記載する看護師は少数であった。舌診として、色、潤い、厚み、形、舌苔、静脈についての評価も全員が実施して記載できていた。舌診によって気づいたことも全員記載はあるが、「わかりにくい」という記述も多かった。

##### (3) アンケートに回答した看護学生161名の授業評価

講義内容の理解については、よく理解できた99名(62%)、だいたい理解できた60名(37%)、あまり理解できなかった2名(1%)、ほとんど理解できなかった0名であった。

脈診・舌診の実施は、よく実施できた86名(54%)、だいたい実施できた73名(45%)、あまり実施できなかった2名(1%)、ほとんど実施できなかった0名であった。

看護で役立つ事は、ある156名(99%)、ない2名(1%)であった。

漢方医学を学ぶ必要性については、強く感じた83名(52%)、まあ感じた74名(46%)、あまり感じなかった4名(2%)、全く感じなかった0名であった。

##### (4) アンケートに回答した看護師93名の授業評価

講義内容の理解については、よく理解できた21名(23%)、だいたい理解できた70名(75%)、あまり理解できなかった2名(2%)、ほとんど理解できなかった0名であった。

脈診・舌診の実施は、よく実施できた8名(9%)、だいたい実施できた68名(73%)、あまり実施できなかった16名(17%)、ほとんど実施できなかった0名であった。

看護で役立つ事は、ある90名(97%)、ない3名(3%)であった。

漢方医学を学ぶ必要性については、強く感じた50名(54%)、まあ感じた39名(42%)、あまり感じなかった3名(3%)、全く感じなかった1名(1%)であった。

#### 考察

アンケート結果は、漢方薬に関心を持つ人と難しいと回答する人と双方の意見があり、評価は多様であった。講義の理解と脈診・舌診の実施について、看護学生は看護師よりもよく理解できた、よく実施できたと評価が高い傾向であった。学生は新しい知識に対する抵抗感が少ない可能性がある。しかし、本調査は授業形式が異なるため、繰り返し視聴できるオンデマンド授業の効果の可能性も高い。

作成した教材に「フィジカルアセスメント」という用語は使用していないが、自由記載には「フィジカルアセスメントに役立つ」という意見も多数あった。

今後、漢方医学を看護学教育で普及させていくために、看護援助に必要な漢方の知識と技術の教育内容を明らかにした。更に、誰でも繰り返し学習できるオンデマンド教材を作成して習得できることと効果を実証した。看護学における漢方医学教育方法の基礎を構築できたと考える。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計1件（うち査読付論文 1件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 1件）

1. 著者名 小池潤	4. 巻 71
2. 論文標題 漢方診療外来における電話相談対応の実態調査研究－外来看護師が感じる対応困難の影響要因とその対処方法－	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 日本東洋医学雑誌	6. 最初と最後の頁 185-192
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

〔学会発表〕 計0件

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	岡田 忍 (Okada Shinobu)  (00334178)	千葉大学・大学院看護学研究科・教授  (12501)	
研究分担者	正木 治恵 (Masaki Harue)  (90190339)	千葉大学・大学院看護学研究科・教授  (12501)	
研究分担者	藤田 尚 (Fujita Hisashi)  (40278007)	同志社大学・研究開発推進機構・嘱託研究員  (34310)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------